

## 編集後記

相変わらずのコロナ禍である。人間は緊急事態宣言下の自粛生活に倦んできているが、ウイルスは飽くことなく変異を続けているらしい。ワクチン接種がようやく軌道に乗り始めた昨今ではあるが、もうしばらくは感染の波を覚悟しなければならないのであろう。その中で、大会の準備を進めておられる和大会長を始めとする関係者のご尽力には頭が下がる思いである。多くの学会がリモート開催を余儀なくされて、1年余りが過ぎた。当初は、コロナ禍が過ぎれば、元の状況に戻れると楽観していたものの、さすがにポストコロナはこれまでとは別世界になるという肌感覚がある。これから、サイエンスを楽しむ研究者同士の交流を深めるためにどのようにすればいいのか、日本神経化学会はそこにどのように寄与していくのか、学会を再定義する必要に迫られているような気がする。

さて、「神経化学」60巻1号をお届けします。本号も記事が盛りだくさんで、「私と神経化学」には、佐武 明先生、田代朋子先生、辻 省次先生、三木直正先生にご寄稿いただきました。このシニア世代からの学会への提言の他にも、「研究室紹介」ではラボを立ち上げたばかりの現役世代、「海外留学先から／海外だより」や「輝け次代の担い手たち」では若手世代と、神経化学会を構成する幅広いジェネレーションを満遍なく取り上げられているかな、と自負しております。ひとえに、次々に新企画を打ち出してきた歴代出版・広報委員長の貢献たるや大と考えておりますし、後を襲うものとしてその重責を感じております。

会員の皆さまで、「神経化学」あるいは学会ホームページ上でもっと情報発信したい、こんな企画が欲しいなどといったご要望をお持ちの方は、是非出版・広報委員会もしくは学会事務局までお寄せ下さい。

等 誠司 (滋賀医科大学)

Facebook の公式アカウントも是非ご覧下さい。

<https://www.facebook.com/694342057338890/>

学会からの情報 (大会開催・公募情報・学術集会等) や記事 (神経化学トピックス・研究室紹介等) を随時配信していきます。

できましたら、「いいね!」のクリックを!



QR コードからも  
アクセスできます